

組織部速報

2021年11月11日
No.12

2021年度年末手当 第3回交渉（会社の考え方）を行なう！

本で行なわれた第3回交渉にて、会社は現時点の考え方を明らかにしました。

- 上半期はコロナ禍に伴う国内外の需要低迷、また豪雨災害による山陽線・中央西線不通により多くの運休が発生し大幅な減収となった。
- 9月末の緊急事態宣言解除、及びワクチン接種者の行動制限の緩和により、企業活動の再開、経済回復の兆しが見えてきている。
- 新型コロナウイルスの影響は落ち着きを保っているものの、第6波は懸念される。また、千葉西部地震や蕨変電所火災、半導体不足や農産物の不作、原油価格高騰による出荷調整などの影響を受けて、営業収入は対計画 98.8%で推移している。
- 年末手当に生活給の要素があることは否定しないが、上半期の業績と直近の動向を見る必要はある。そのため、現時点では今年の年末手当の水準を上回るよう検討していく考えである。

これに対し中央本部は、以下の点について強く指摘しました。

- 何故夏季手当ではなく今年の年末手当がベースなのか？コロナ禍、災害、異常時に対応してきた職場の組合員との感覚はかけ離れており、納得できない。
- 会社の説明では業績給の要素しか感じない。生活給の要素は数字で示さないのか？かつては1.5カ月分と言われていたが20年前の水準、物価は上昇している。
- ブロックトレインの追加など、新たな施策にも職場は全力で対応してきた。
- 要員不足の問題、超勤問題、設備の問題、シニアの問題…一向に改善しない状況に職場では怒りが渦巻いている。会社の誠意を見せないと怒りは収まらない。
- 現時点の会社の考えでは、経営陣の誠意は全く感じられず、到底受け入れることはできない！再考を求めろ！

回答指定日におかれて、職場の声を結集させよう！